

高校生による出前授業

今年も高校生による2つの出前授業が行われました。高校のカリキュラムの一つではありますが、小学生にとっては、高校生と交流が図れる絶好の機会となります。高校生の中には、こういった経験を通して、将来、学校の先生になってみたいと思った生徒がいるかもしれません。児童は、自分が高校生になったら、同じように出前授業をやりたいと思った子がいると思います。お互いに刺激を受けて、新たな何かを感じられる時間になったことでしょう。

ところで、新聞報道でご存じのように「桐生みどり地区県立高等学校再編整備計画」により、桐生高校と桐生女子高校、桐生南高校と桐生西高校が統合され、2021年に新たな2つの高等学校が誕生します。2019年・20年が移行期間となりますが、これに伴い、すでに来年度は募集定員が変更されています。新高校へは、現在の6年生が初めての入学者となります。

どんな名称になるのかわかりませんが、群馬県に〇〇高校ありと、2校ともその名をとどろかせるような学校に育ってほしいと思います。そして、その主役となり担い手となるのは、今、小学校に在籍している子供たちなのです。いっぱい勉強し、体を鍛え、いろいろなことを覚え、できることを増やし、たくましく立派な高校生になって、出前授業に来てくれることを期待しています。

桐生女子高校 英語科「お手伝い授業」 11/6(月)



今年も桐女英語科の2年生10名が「お手伝い授業」にやってきました。対象は3年生です。5人ずつ2クラスに分かれて、果物の名前を中心に外国語活動の授業を行いました。

本校では、1年生のときから、国際理解教育の一環として、ALTの勤務日に数時間ずつ外国語活動を行っていることもあって、果物が描かれたフラッシュカードを掲げると、すぐに「ピーチ」「ストロベリー」などの声が上がります。反応のよさに驚いた様子でしたが、テンポよく進められて楽しい授業となりました。

来年度は、新学習指導要領全面実施に向けての移行措置で、3・4年生は外国語活動が始まり、5・6年生は外国語(英語)になります。



SSH[スーパーサイエンスハイスクール]に指定されている桐生高校理数科から、9名の1年生が来校し、6年生が「環境にやさしい社会をつくろう」をテーマに《地球温暖化》について学習しました。

初めに低速電動コミュニティビークル eCOM-8 “MAYU” (今回はブルーとピンクでした)に試乗させてもらい、その後、多目的室で高校生による授業が行われました。地球温暖化は加速度的に進行し、このままのペースで推移すると、2050年頃には地球の平均気温が2度上昇(1986～2005年の20年間の平均値を0.0度として)するという予測もあります。温暖化が進むと、異常気象、干ばつや水害などの自然災害、食糧不足、健康被害など、予想もつかない、未曾有の危機が襲うであろうと言われています。

日本の場合、1981～2010年の30年間の平均値を基準値とすると、昨年2016年の平均気温偏差は+0.88度で、世界平均の+0.45度より高い値を示しています。数値は毎年上下していますが、グラフは右肩上がりの上昇傾向を示しています。温暖化の原因は一つではありませんが、最大の要因は、温室効果ガス、とくにCO₂(二酸化炭素)です。私たちが吐く息にも含まれますが、化石燃料(石炭や石油・天然ガスなど)を燃焼させるときに大量発生します。

高度経済成長が終盤を迎える1970年代初頭「車はガソリンで動くんです」という石油会社のCMがありました。エンジンはガソリンや軽油が燃焼(爆発)することで動きます。車が走れば、CO₂が発生します。そこで、モーターで動く電気自動車へシフトしようとしています。でも、日本では電気の大部分は、火力発電つまり化石燃料を燃やして作っています。温室効果ガスを出さずに高い発電力を持つとして建設されてきた原子力発電も、事故が起きたときの危険性、さらに核廃棄物処理の問題等を抱えています。そこで、太陽光発電等の自然エネルギー・再生可能エネルギーが注目されるのです。しかし、電力を安定供給するには、まだまだほど遠い状況です。ならば最もクリーンな水力発電をと思いますが、もう巨大なダムを建設できそうな場所は、ほとんどなさそうですし、大々的に自然に手を加えるというマイナス面も持っています。

では、[どうすればCO₂を減らすことができるのでしょうか]。それが、今回の授業の課題でした。答えは簡単。江戸時代以前の暮らしに戻ること。そんなことは、今更不可能でしょう。

前述のCMでは、こんな歌が流れていました。「気楽に行こうよ俺たちは あせって見たって同じこと のんびり行こうよ俺たちは 何とかなるぜ世の中は 気楽に行こう のんびり行こう」=『気楽に行こう』作詞作曲：マイク眞木。世の中にコンビニが登場してから、確かにconvenience[便利]になりました。しかし、生活の中に確実に存在していた昼夜の区別が曖昧となり、何となくせわしく、常に追い立てられているような気分を感じるようになったのは、私だけなのでしょうか。何もかも早く便利に効率的にを追求することも必要なことです。一方、のんびり気楽に暮らすことで、CO₂の削減に貢献できるような気もします。2050年は33年後。今、私たちにできることは何でしょうか。



タイヤに注目 前から3輪(実際は6輪)が少しずつ角度を変えて動いています